
教育総合センター

NO. 94

平成16. 12. 1

だより

一見あたりまえ

尼崎市立城内中学校
校長 前田 耕一



先日、大山崎山荘美術館へ行ってきました。作品以外にも庭園と建物とアンティークの素晴らしい山荘です。

天王山の麓、駅から歩いて10分ほど山手に上った所にあり、高齢者や体の不自由な人には駅から無料送迎バスを出すという配慮がなされていますが、駐車場はありません。

この美術館の敷地内にはゴミ箱が一つもありません。老若男女で賑わっていますが、来訪者はゴミを出さない、持ち帰ってくださいということでしょう。

来館者もきれいな場所は気持ちがいいし、汚さずにおこうという気持ちになるのでしょう。この美術館はいつ行っても、ゴミが落ちていない手入れの行き届いた、心が落ちつく所です。

子供を育てる時も、まず、親や大人がいつ、どこでも、こうした美しいふるまいの見本を見せていきたいものです。

また、人が集まる所ではごみ箱があるのがあたりまえ、駐車場があるのがあたりまえという便利な快適な日常性を見方をちょっと変えてみる発想も大切だと思います。

そんな折、子どもへの愛情と教育への情熱ほとばしるロン・クラークの『あたりまえだけど、とても大切なこと』(草思社刊)に出会い、そのプロ魂に圧倒されました。

ごくふつうの生活ルール「あたりまえのこと」がきちっと教え込まれ、身につけ実行できることが人間の生き方、人との関わり方、大人になるための土台になると述べられています。

現実を直視し「子どものためのルールブック」づくりを通して最善を尽くされた実践記録です。

子どもの実態を正しく捉え、一人ひとりを伸ばし、豊かな心とたくましく生きていく力を育てているだろうか、反省させられました。

今年は学校の行事の一つ一つが「城内中としては最後」の行事になります。

卒業生や地域の人々は今なお、城中の思い出を大切にされています。そして、そのことが今の城中や城中生への暖かいまなざしと思い入れとなり、今日の城中があることに感謝しています。

生徒たちも最後の城中生としての自覚のもと、体育大会・文化発表会等いろんな行事に取り組んでいます。

これからの残された月日、城内中学校として大切に引き継ぎ、残していかなければならないものと、統合へ向かって大きく「ジャンプ」できる取り組みを進めていこうと、気持ちを引き締めている今日この頃です。

教育公務員特例法第23条の規定に基づき実施する初任者研修は、新任教員の自主性・自発性を踏まえ、児童生徒との触れ合いの中で、豊かな人間性と教育力に富む教師の育成を図ることを目的としている。

本年度の初任者研修は、校内研修180時間（以上）・校外研修は25日である。校外研修の内、8日間は本市教育委員会として支援できる研修である。

4月実施の初任者教員を含む管外転入教員研修後のアンケートでは、教職に対する意気込みややる気・教科指導の難しさや、学級づくり・保護者との関係への不安等が記述されていた。これらのアンケートを最大限に活かし、本年度の研修の企画に取り込んでいる。

【声◆声◆声】

1学期に授業研究をして（平成16年度採用）

◆研究授業をして、授業を行うまでの準備がとても重要だと感じた。今までは、「どのように教えるか」という視点で授業をとらえていた。今回、子どもが楽しく活動できそうだとイメージしながら、本時の展開を考えたことで、授業も自然な流れで行うことができた。その後は、教材研究の時に子どもの視点に立って授業を計画しようと心がけるようになった。指導案の作成や授業を見てもらうことは、大変なプレッシャーであったが、多くの先生方に事後研究会でアドバイスをもらったり、改善点を指導して頂き、大変勉強になった。授業をやったよかったと本当に思う。（加茂川教諭）

1年間、初任者研修を受けて（平成15年度採用）

◆とにかく毎日必死に頑張っていました。その中で研修はホッと息がつける時間でした。講義の内容が勉強になったのはもちろんですが、研修後に同期と話す時間が自分の中で大切なものになっていました。2年目になって、研修の講義の内容を思い出して、授業に取り入れてみようと思うことができます。これから、どんどん研修を

活かして頑張ります。（松阪教諭）

◆昨年1年は頻りに教室を空けているなあという実感が残っているように、多くの研修を受けてきた。印象に残っているのは、実技や話し合いの交じったもので、主体的に関わることで自分の実践にどう生かそうか考えることができた。昨年は、自分の未熟な面をこれから成長させていかなければという意識を1年を通して持つことができた。（磯野教諭）

◆昨年1年間は、仕事上失敗することも多く、落ち込むこともしょっちゅうでした。しかし、最低月1回は実施される初任者研修の中で、多くの同期の仲間と出会い、みんなもそれぞれ悩んだり落ち込んだりしながら頑張っていることがわかり、ずいぶん励まされました。教師を続けていくと、ややもすると視野が狭くなったり、頭でっかちになったりすると言われますが、柔軟な心を持ち続けられる教師でいたいと思います。1年間、本当にありがとうございました。（芋畑教諭）

◆昨年1年、学級経営の仕方など多くの研修があったが、生かすことができず、悩んだ時も多かった。それは多分、良いクラスにしよう、きちっとできるクラスにしようという焦りがあったからだと思う。小さな焦りが積み重なって、大きい焦りになっていたのかなと今では反省している。しかし、昨年1年、研修で学んだことは、今年、生かすことができていると思う。今年は、焦りもなくゆっくりやっているので、昨年の研修を思い出しながら2年目ががんばろうと思っています。（松野教諭）

（研修担当指導主事 廣井 尋美）

☆☆☆☆☆ 人権教育をどのように推進していくか ☆☆☆☆☆

学校教育以外は社会教育です。

人生80年といわれる今日、幼・小・中・高校の期間を除いた約65年は、生涯教育（生涯学習）の期間です。家庭で、地域で、職場で、仲間とあるいは一人で学習を続けることは、人を磨き輝かせます。その学習の根っこに、人権はあります。

人権を学ぶにあたっては、次の四つの視点が大事になります。

1 人権についての教育

人権とは何か、人権について教え学ぶこと。狭義の人権教育です。

2 人権としての教育

教育を受けることそのものが人権であり、さまざまな理由から教育の機会を奪われてきた人びとに対して、教育を保障することです。

3 人権のための教育

教育によって、人権をまもり促進する社会や個人を育てようとするものです。

4 人権を通じての教育

人権教育は、その学習過程そのものも、人権が守られた状況のなかで展開されるべきであるという視点から、人権教育をとらえた考え方です。

そして、この『人権』という言葉は、Human Rightsの訳語です。人間として、もしくは人間にとって正しいことというのが本意です。人としての権利と、人として正しいこととは、若干の距離があるように思われます。

「新しい人権を、人権として定着させ

るためには、その主張の正しさについて、社会的コンセンサスを獲得する努力が必要。それなしに憲法に書き込んでも、実効的な保障にはつながらない。逆に、社会的コンセンサスが得られれば、憲法に書いていなくても十分に保障される。」という名古屋大学の浦部法穂教授の言葉を、我々はしっかり受け止めなければならないと考えています。

* * * * *

以上の観点に立って、社会教育課では、話し合い中心の人権学習を進めています。

I 人権教育小集団学習事業

概ね10～15名程度で、月1回、子育て・いじめ・高齢者問題・障がい者問題・同和問題などの人権問題を学習するグループを約60グループ組織しています。学習には、元学校長の社会教育課嘱託を派遣しています。

この学習事業から、人権啓発オピニオンリーダー、人権啓発推進リーダーが育ち、集団の学習を豊にしています。

II 尼崎市人権・同和教育研究協議会

「人権意識の高揚につとめ、部落差別をはじめとするあらゆる差別を解消し、民主的な社会の基礎となる人権・同和教育の正しい理解を求め、これを推進させることを目的とする」、尼同教を助成しています。

(社会教育課人権教育推進担当係長

山口 公博)

☆☆☆☆☆ **自らの人権感覚を振り返るために** ☆☆☆☆☆

人権週間(12/4 ~ 12/10)が始まります。いろいろな機会、また様々な場で、「人権」の問題を考えてみることは、非常に大切なことでもあります。

今回は、社会教育課人権教育推進担当山口係長より推薦のあった図書を紹介します。

(図書館を利用されるか、書店でお買い求め下さい。)

なお、人権に関する 16mm フィルムやビデオテープは、教育総合センター 4 階視聴覚ライブラリーや(社)尼崎人権啓発協会 (Tel 6489-6815 市役所中館 7 階)にも整備しています。また、教育総合センター 3 階の情報コーナーでは、人権教育関係の図書も収集しています。

■ **「日本三文オペラ」** **開高 健 著** **新潮文庫**

大阪旧陸軍工廠後に放置された莫大な鉄材に目をつけた泥棒集団「アパッチ族」の勇猛果敢な大攻撃。

■ **「楢山節考」** **深沢 七郎 著** **新潮文庫**

雪の楢山へ老母を背板に乗せて捨ててに行く孝行息子の胸つぶれる思い。

■ **「冤罪」** **藤沢 周平 著** **新潮文庫**

勘定方相良彦兵衛は、藩金横領の罪で詰め腹を切らされ、その日から娘の明乃も失踪。

■ **「青べか物語」** **山本 周五郎 著** **新潮文庫**

うらぶれた漁師町浦粕に住みついた「私」の眼を通して、独特の狡猾さ、愉快さ、質朴さをもつ住人たちの生活ぶり。

■ **「沈黙の春」** **レイチェル・カーソン 著** **新潮文庫**

自然を破壊し人体を蝕む化学薬品浸透・・・現代人に自然の尊さを思い起こさせ、自然保護と化学公害告発の先駆書。

■ **「忘れられた日本人」** **宮本 常一 著** **岩波文庫**

文化を築き支えた伝承者＝老人達がどのような環境に生きてきたかを、古老たち自身の語るライフヒストリーをまじえて生き生きと描く。辺境の地で黙々と生きる日本人の存在を歴史の舞台にうかびあがらせた。

開館時間のご案内

平日： **午前9時から午後9時**

ただし、教育相談は、
午後5時15分までとします。

なお、次の日は取り扱いいたしません。

【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】

発行	尼崎市立教育総合センター 〒661-0024 尼崎市三反田町1-1-1 Tel 06-6423-3400
発行者	倉橋 忠
題字	教育委員長 岡本元興